

東京総支部、「重篤災害撲滅のための緊急総決起集会」を開催。

東京総支部においては、藤木会長からの「死亡災害の急増に対する緊急の労働災害防止対策について(要請)」(1月24日付)を受け、平成31年1月30日、参加会員の安全衛生担当者をはじめ約70名を集めて、「重篤災害撲滅のための緊急総決起集会」を開催しました。

この総決起集会には、急な開催であったにもかかわらず、東京労働局から、直野安



全課長、荒井副主任安全専門官、東京港運協会から今村常務理事、港湾労災防止協会本部から菅原業務部長が来賓として御出席いただきました。

黙とう



開催に先だち、本年になって亡くなられました3名の方と、これまでに凶らずも殉職された『港の仲間』に対して、哀悼を込め黙とうを捧げました。

城田総支部長挨拶

次に、城田総支部長から、

本日の決起集会につきましては、とくに、藤木会長から直接電話をいただき、『現下の緊急事態を乗り越えるためには、日頃から申し上げている一港一社の考えに基づき、すべての会員の皆様が共通の認識を持ち、これ以上の死亡災害は絶対に起こさないという決意を固めることが何より重要だ。そのために総決起集会を開催してもらいたい』というお言葉をいただきました。東京総支部の昨年の休業災害件数は、2件で良好な成績ですが、今年に入ってから3件の死亡災害発生状況を見ると、同様の作業は、東京港でも日々行われており、決して他人事ではありません。



まさに、今、東京港が一体となって、このような、あってはならない、起こしてはならない災害の連鎖を食い止めていきたい。この決起集会を契機に東京港の全体の緊張感を高めた安全活動を推進しましょう！

という御挨拶がありました。

来賓御挨拶

来賓を代表して、東京労働局直野安全課長から、

東京労働局管内での労働災害は全業種で見ると増加傾向にあります。港湾貨物運送業については、少なくなってきたとはいえ、重篤災害に繋がる危険は大きく、本日の緊急集会は意義のあるものです。

港湾運送業の災害の型としては、墜落・転落それから挟まれ・巻き込まれ災害が2大災害となっており、今回の3件の死亡災害についても挟まれ・巻き込まれとのことです



が、その中の二人が20代ということで、その安全対策として若年者、未熟練者に対する安全衛生教育と注意喚起と、また、経験を積んだ人に対しても油断に対する対策も必要です。東京港で絶対にこのような重篤な災害は決して起こさないように、ご指導と積極的な取り組みをお願いします。

という御挨拶がありました。

東京総支部の取組み及び決意表明

濱西安全衛生委員長から、

東京支部の総決起大会は今から 20 年前に、東京港において平成 11 年 12 月に 1 件、そして翌年 1 月に 3 件の重大災害が連続して発生し、総決起大会を行いました。事故の内容については概略ですが①RO/RO 船内で製材の荷崩れ、②内航船でのレッカーのブームの落下、③吊り上げたコンテナの落下、④シャーシに巻き込まれと、今回と同じような事例でした。今回は 2 度目の総決起集会となります。



近年この 5 年を見ますと東京港は災害件数を順調に減らしていますが、20 年前にそういった大災害が東京港でもあったということを是非とも認識して頂きました、他山の火事ではありません。東京港でも同じような災害はいつでもあり得るということです。

皆さんにお願いしたいことは、朝の危険予知活動とミーティングを徹底して頂いて、今年も災害の撲滅に努めて頂きたいと思います。

という御挨拶の後、決意表明の読上げがありました。

指差唱和『ゼロ災で行こう ヨシ!』



最後に、鶴岡安全衛生副委員長の御発声により、全員で垂れ幕に向かい、『ゼロ災で行こう ヨシ!』を指差唱和し、総決起集会を終了しました。

ご安全に！